



エチレン屋としての総仕上げ

厳しくもやりがいのあった 新プラントの設計・建設

これは平成元年、京葉エチレンのエチレン装置を設計する時のキックオフミーティングの写真である。千葉の丸善石油化学の敷地に、当時ナフサ分解としては世界最大の60万トン装置を建設するプロジェクトだ。

私は、昭和39年にサンドクラッカーの建設運転に携わった。故障が多く失敗だったが、技術屋として本当に勉強になった装置だった。昭和44年には日本最初のエチレン30万トン装置の設計建設に続き、運転にも長く携わった。この装置は、今では50万トンまで能力を上げ、40年近く経っても活躍している。余裕を持たせた設計が後年役に立った。

そして、平成元年から京葉エチレンの設計に取り掛かり、平成4年に稼動を開始した。エチレン屋としての総仕上げだったので、この写真は私の人生で最も記念になった瞬間である。

分解炉設計の苦労や、熱効率の向上を目差したガスタービンの全面的導入は当然として、今



小野 峰雄

丸善石油化学
相談役

では当たり前だが当時初めて余剰電力を東京電力に外販するシステムを導入した。前年の猛暑で電力不足を経験した東京電力は全面的に協力してくれた。稼動当初はアセチレン吸収系の設計ミスのため、スタートアップの際に、3週間東京湾をフレアスタックの炎が赤々と照らした苦い経験は忘れられないが、その後は一度も定期修理以外の停止を経験していない。このことが私の自慢である。

起工式で挨拶している写真は楽しさのピークで、その後の建設では当然の事ながらどろどろした苦労の連続であった。ただ、協力業者は不景気が手伝ってか、各社超一流の現場監督を派遣してくれたので、厳しいながらも大変やりがいのある建設現場だった。建設中には、卓球台を揃えて彼らと卓球で融和を図った。今でも年に一度集まって旧交を温めている。

私の良き時代の写真である。

私の思い出写真館